

四国災害アーカイブス



# アーカイブスあらかると

Vol.142～153（2024年4月～2025年3月）

一般社団法人 四国クリエイイト協会



## はじめに

四国災害アーカイブスは、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、地域防災力の向上のためにできるだけ多くの人々に活用してもらえるようインターネットを通じて情報を提供するものです。平成24年7月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成25年7月からは第二弾として土砂災害、濁水の情報を追加、平成26年7月よりすべての災害種類の情報を提供する本格的な運用を行っています。

「アーカイブスあらかると」は、皆さまに少しでも四国災害アーカイブスへの関心を持っていただくために、平成24年7月以来、毎月、四国災害アーカイブスのWEBサイトに掲載してきたコラムです。この冊子には令和5年度分 Vol. 142～153（2024年4月～2025年3月）のコラムを編集して収録しています。

この冊子が多くの人に活用され、四国災害アーカイブスが四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っています。

令和7年4月

一般社団法人 四国クリエイト協会  
理事長 木村 昌司

## 目 次

- Vol. 142 (2024 年 4 月) **水をめぐる地域対立**…………… 1
  - ・ 竹之窪井堰の水論 (愛媛県大洲市)
  - ・ 河内谷の水争い (徳島県三好市)
- Vol. 143 (2024 年 5 月) **干ばつ時の対応あれこれ**…………… 5
  - ・ 昭和 14 年の干ばつ (香川県高松市)
  - ・ 昭和 48 年の高松砂漠 (香川県高松市)
- Vol. 144 (2024 年 6 月) **集中豪雨**…………… 9
  - ・ 昭和 54 年の集中豪雨 (愛媛県松山市)
  - ・ 平成 11 年の集中豪雨 (徳島県阿南市)
- Vol. 145 (2024 年 7 月) **昭和 42 年の干ばつ**…………… 13
  - ・ 石手川ダム (愛媛県松山市)
  - ・ 野村ダム (愛媛県西予市)
- Vol. 146 (2024 年 8 月) **台風による豪雨**…………… 17
  - ・ 昭和 50 年の台風 5 号 (高知県佐川町)
  - ・ 昭和 51 年の台風 17 号 (香川県小豆島町)
- Vol. 147 (2024 年 9 月) **浸水はここまで**…………… 21
  - ・ 平成 13 年の高知西南部豪雨災害 (高知県土佐清水市)
  - ・ 平成 16 年の台風 23 号による浸水 (徳島県美馬市)

■ Vol. 148 (2024年10月) 宝永地震による津波と 地盤沈下	25
・ 鞆浦の大岩碑 (徳島県海陽町)	
・ 碓神社 (愛媛県西条市)	
■ Vol. 149 (2024年11月) 油断せず避難せよ	29
・ 木岐王子神社の石灯籠 (徳島県美波町)	
・ 三崎十字橋の碑 (高知県土佐清水市)	
■ Vol. 150 (2024年12月) 地震と津波による被害	33
・ 浅川村の津波被害 (徳島県海陽町)	
・ 中村町の地震被害 (高知県四万十市)	
■ Vol. 151 (2025年1月) 災害からの復旧	37
・ 山津波からの復旧 (香川県小豆島町)	
・ 室戸台風からの復旧 (高知県南国市)	
■ Vol. 152 (2025年2月) ため池の役割	41
・ 大窪池 (香川県丸亀市)	
・ 関地池 (愛媛県西予市)	
■ Vol. 153 (2025年3月) 土砂災害を伝える	45
・ 真光寺の復興記念碑 (香川県小豆島町)	
・ 比島山災害慰霊碑 (高知県高知市)	
■ 四国災害アーカイブスの概要	49

## 水をめぐる地域対立

大規模な用水事業やダム建設が行われていない時代には、水をめぐって地域間の争いが頻繁に起こっていました。今回は愛媛県大洲市の竹之窪井堰の水論と徳島県三好市の河内谷の水争いをご紹介します。

### ■竹之窪井堰の水論（愛媛県大洲市）

文化6年（1809）6月26日、干ばつのため、宇和島領平地村の竹之窪井堰で、新谷領阿蔵村と大洲領大洲村との間に水論が起きました。阿蔵村は慣例にしたがい上流の竹之窪井堰の水脈をあげましたが、大洲村が平地村に働きかけて水脈をせき止めたため水が絶えました。阿蔵方は怒ってこれをあげました。両者は口論となり、阿蔵方80余人と大洲方30余人が久米川を挟んでにらみ合うことになりました。この水論は阿蔵方に非ありと処分されましたが、これに対して阿蔵方は事件の再審を願い出たため、大洲・新谷・宇和島の三藩で事件收拾のための折衝が行われました。結局、文化7年10月に紛争は解決し、阿蔵村の農民は権利を守ることができました。大洲・新谷両藩は、紛争の禍根を断つため替地を幕府に願い出て、文化9年に認可されました。＜大洲市誌編纂会編「大洲市誌」1972年、門田恭一郎「伊予における水論について（下）」伊豫史談第318号2000年など＞



竹之窪水騒動碑





### ■河内谷の水争い（徳島県三好市）

三野町（現三好市）の河内谷では、東岸の三村（芝生、勢力、加茂野宮）と西岸の東川原の間で、農民が対峙し、鍬、鎌などを構えた水争いが度々起こりました。東岸の三村用水は、文化3年（1806）の干ばつを機に河内谷の岩角に釜所をつくり、そこから三村に導水する水路が文化5年に完成しましたが、その成功を見て同年に西岸の東川原に導水する太刀野用水が着工されました。しかし、太刀野用水は三村用水の釜所よりも下流に釜所をつくらざるを得なかったため、ほとんどの水は三村用水に流れ込み、太刀野用水の水量が少ないため水争いが起こったのでした。この水利権争いは、昭和2年1月に調停裁判の結果、三村に8割、太刀野に2割分水する和解が成立しました。〈三野町誌編集委員会編「三野町誌」1974年、吉岡浅一編「三好郡歴史散歩」1980年〉





## 干ばつ時の対応あれこれ

香川県は瀬戸内海式気候に属し、雨が少なく、古くからたびたび干ばつに悩まされてきました。今回は、昭和14年の干ばつ時と、高松砂漠と呼ばれた昭和48年に、どのような対応がなされたのかについてお伝えします。時代の変化も感じられると思います。

### ■昭和14年の干ばつ（香川県高松市）

昭和14年（1939）、香川町（現高松市）では、前年の11月から雨が少なく、7月までの雨量は平年の55%にすぎませんでした。7月、県知事は自ら滝宮天満宮で雨乞い祈願を行い、8月には県から各市町村に雨乞い祈願をするよう通知し、9月には知事が県下の学校へ学童は日出前と日没前にどびん水を稲田にかけるよう通達を出しました。香川町の高塚山の新池神社でも、竜神信仰にちなんで神官が一週間山上でお籠もりし雨乞い祈願をしました。それでも、稲作は未曾有の被害を受け、収穫皆無のところが多くなりました。この昭和14年の干ばつを契機に、香川県は内場ダム・長柄ダムの建設、満濃池の嵩上げなどに取りかかることになりました。＜香川町誌編集委員会編「香川町誌」1993年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年など＞



■昭和48年の高松砂漠（香川県高松市）

昭和48年（1973）は、7月から8月中旬までほとんど雨が降らないという異常気象となりました。このため、高松市の上水道の水源である内場池、四箇池、奥の池、御殿貯水池の貯水量が低下しました。高松市では7月13日に第一次給水制限、7月21日に第二次給水制限、8月1日に第三次給水制限に入り、一日の給水時間は午前5時から8時までの3時間となりました。市民生活への影響が深刻になり、高松市では陸上自衛隊の救援出動を要請し、大規模な給水活動を行うとともに、四国の他の三県等からの応援給水を受けました。また、満濃池土地改良区は、県渇水対策本部の要請を受け、満濃池の貯水を建設途中の香川用水東部幹線用水路を使用して高松へ緊急送水し、高松市民の窮状を救済しました。8月に台風10号による降雨があり、それ以降断続的に雨が降るようになりました。＜高松百年史編集室編「高松百年史下巻」1989年、満濃池土地改良区「満濃池史」2001年など＞



## 集中豪雨

梅雨期には、梅雨前線が停滞したり、活発になり、集中豪雨が起ることがあります。集中豪雨は河川の氾濫や土砂災害などをもたらします。昭和54年の愛媛県松山市と平成11年の徳島県阿南市の例をご紹介します。

### ■昭和54年の集中豪雨（愛媛県松山市）

昭和54年（1979）6月17日から降り始めた雨は降り続き、松山市では7月1日までの雨量が480ミリ、山間部では600ミリを超えました。特に6月30日には1時間当たり100～150ミリの集中豪雨となり、各地で山崩れや河川の氾濫により、多くの被害が出ました。土居谷川上流では河川の決壊や水田の流出が80箇所及び、萱谷川の氾濫では家屋への土砂の流入や床下浸水が14世帯、道路の崩壊10箇所、水田の被害80aの災害となりました。溝辺町の塚谷川、食場町の土居谷川、末町の萱谷川も大被害を受けましたが、国・県・市の尽力により昭和56年度末までにほとんどの修復工事が完了しました。溝辺町に塚谷川改修記念碑が建立されています。＜湯山誌稿第二巻編集委員会編「湯山誌稿」1987年、塚谷川改修記念碑の碑文＞



塚谷川改修記念碑



### ■平成11年の集中豪雨（徳島県阿南市）

平成11年（1999）6月29日午前9時頃より梅雨前線が活発になり雨が強まり、谷口では時間雨量104ミリ、3時間雨量242ミリを観測しました。この豪雨により桑野川の水位が急激に上昇し、13時には新野水位観測所では堤防高3.9mを越える4.05mを記録、堤防越水により新野町の中心部に浸水被害が出たほか、無堤部や堤防の低い箇所では氾濫による浸水被害が、堤防のある区間では内水被害が発生しました。大原水位観測所では14時に計画高水位にあと9cmに迫る水位6.19m、最大流量約770 m<sup>3</sup>/sを記録しました。被害は新野町を中心に床上浸水48棟、床下浸水194棟、浸水面積215haにのびりました。この集中豪雨を契機に、平成11年度から平成20年度にかけて、桑野川では引堤事業や排水機場の新設などが行われました。＜国土交通省四国地方建設局・徳島県編「那賀川水系河川整備計画【変更】」2015年、阿南市史編さん委員会編「阿南市史第4巻」2007年＞





## 昭和42年の干ばつ

昭和42年(1967)は7月から10月にかけて干ばつのため水不足となり、西日本各地で農作物などに大きな被害が出ました。愛媛県では果樹などの被害が甚大となり、この干ばつを契機にダム建設が進められることになりました。松山市の石手川ダムと西予市の野村ダムの例をご紹介します。

### ■石手川ダム(愛媛県松山市)

昭和42年当時、松山市及び北条市(現松山市)にまたがる石手川北部山麓ではみかんの栽培が行われていました。しかし、果樹園のかんがい施設は全くなく、天水のみに頼っている状況で、干ばつによる被害は甚大となりました。既に昭和41年度から2か年にわたって石手川上流部に洪水調節、かんがい及び上水道の用水補給を目的とした石手川ダムを建設するための実施計画調査が行われ、昭和42年度内に基本計画を決定する予定でしたが、昭和42年の干ばつにより、急きょ畑地かんがいの計画が編入されることになり、基本計画の告示は昭和43年11月となりました。ダム建設は多くの人に支持され、工事は建設省により昭和43年度に始まり、昭和48年3月に完成しました。<建設省四国地方建設局松山工事事務所編「松山工事四十年史」1985年、同「えひめの道と川」1995年など>



### ■野村ダム（愛媛県西予市）

宇和島市、八幡浜市などの南予地区海岸部は、山が海に迫り平野の少ない地形で、大きな河川もないため、毎年のように水不足に悩まされてきました。なかでも昭和42年の干ばつは、90日間雨らしい雨はなく、かんきつ類を枯死させるなど被害が甚大となりました。このため、愛媛県は昭和45年9月に南予水資源開発計画を発表し、その要として野村ダムを位置づけました。野村ダムは、肱川下流の洪水調節を行うとともに、野村ダムから取水して幹線水路を通じて宇和島市、八幡浜市などの南予地区にかんがい用水及び水道用水を供給することを目的とした多目的ダムです。ダム建設工事は建設省により昭和48年度に開始され、昭和57年3月に完成しました。＜愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史県政」1988年、四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」1990年など＞



## 台風による豪雨

台風による豪雨が河川の氾濫や土砂災害などを引き起こし、甚大な被害をもたらすことがあります。平穏な生活は一変します。それでも人々は力を合わせて復旧、復興に取り組んできました。高知県佐川町と香川県小豆島町の例をお伝えします。

### ■昭和50年の台風5号（高知県佐川町）

昭和50年（1975）8月17日8時50分頃、台風5号が宿毛市付近に上陸し、四国西岸をかすめた後、昼過ぎに伊予灘に抜けました。高知県中西部は集中豪雨に見舞われ、佐川町では最大1時間雨量が108ミリを記録しました。町では特に柳瀬川上流の尾川で鉄砲水が噴き出し、尾川川は奔放、松ノ木、古畑付近は田畑が砂礫に没し道路も寸断されました。尾川川の濁流は柳瀬川に架かる由留岐橋を流し柏原、岡崎、虎杖野から柳瀬、九反田、富士見町、西佐川にかけて一望の海となりました。佐川町の被害は死者2人、軽傷40人、床上浸水644戸、半壊279戸、流失3戸等に及びました。西山耕の災害之碑には、この台風で西山地区は900ミリを越す集中豪雨に見舞われ、大災害を受けたため、国の激甚災害法の適用を受け、県、町、地区民一体となって災害復旧に当たったことが記されています。＜佐川町史編纂委員会編「佐川町史下巻」1981年、西山耕の災害之碑の碑文＞



西山耕の災害之碑

Copyright © 2013 西園実業アーカイブス



現在の由留岐橋

Copyright © 2013 西園実業アーカイブス



(地理院地図に加筆)

■昭和51年の台風17号（香川県小豆島町）

昭和51年（1976）9月8日～13日、台風17号が九州南西海上に停滞する間に、香川県には南から湿った空気が流れ込み、県内各地は記録的な豪雨となりました。8日～13日の降雨量は内海町（現小豆島町）四望頂で1,376ミリに達しました。内海町では11日には急傾斜地が多い東部地域で山崩れ、河川の氾濫が起こり、ついで神懸通り、西村地域で土石流が発生し、草壁本町、安田、馬木地区では床上浸水が続きました。内海町の被害は死者7人、重傷者18人、軽傷者36人、建物の全壊127戸、半壊137戸、床上浸水1,543戸、床下浸水1,191戸等に及びました。苗羽（のうま）の被災復興之碑には被害は甚大であったが、国、県、町の援助と地区住民挙げての努力により中筋川の改修等を行い、復興を成し遂げることができたと記されています。＜内海町災害の記録編集委員会編「昭和51年9月台風17号による集中豪雨1,400ミリの爪跡」1977年、苗羽の被災復興之碑の碑文など＞







## 浸水はここまで

豪雨のため河川の氾濫や内水氾濫が起こり、浸水に見舞われることがあります。その時の浸水水位を示しておくことは、地域に住む人々に水害への意識を高めることとなります。高知県土佐清水市と徳島県美馬市の例をご紹介します。

### ■平成 13 年の高知西南部豪雨災害（高知県土佐清水市）

平成 13 年（2001）9 月 6 日未明から早朝にかけて、秋雨前線と台風 16 号による豪雨のため、高知県西南部では各河川が氾濫しました。土佐清水市の宗呂川では、下川口観測所の水位が 6 日 4 時には 0.60m とほぼ平常でしたが、その後水位が急激に上昇して 7 時には 5.84m を記録し、観測所が水没して記録がとれなくなるほどの洪水となりました。宗呂川の浸水被害は床上浸水 208 戸、床下浸水 25 戸に及びました。下川口浦地区の区長さんは、4 時過ぎに区長場からマイク放送で住民に避難を呼びかけた後、消防団員と連携して地区内の全戸を回り避難の状況を確認し、明るくなってからは首まで水に浸かりながら全戸の安否確認を行ったといいます。区長場には「浸水水位ここまで」という表示があります。＜国土交通省四国地方整備局・高知県編「救ったのは人のつながり」2002 年、高知県土木部河川課・防災砂防課等編「平成 13 年 9 月高知県西南部豪雨災害」2002 年＞



## ■平成 16 年の台風 23 号による浸水（徳島県美馬市）

平成 16 年（2004）10 月 20 日 13 時頃、台風 23 号は高知県土佐清水市付近に上陸し、その後北東進し 15 時過ぎに室戸市付近に再上陸しました。徳島県の各地は大雨となり、吉野川では基準地点岩津の最大流量が約  $16,400 \text{ m}^3/\text{s}$  と推定され、戦後最大の洪水となりました。このため、池田から岩津の間にある無堤地区で吉野川の氾濫が発生するとともに、各所で内水氾濫による被害が発生しました。岩津上流の穴吹町（現美馬市）の被害は浸水面積 63.3ha、床上浸水 24 戸、床下浸水 49 戸などに及びました。吉野川右岸の穴吹箇所ので防には、階段の下から 8 段目に「平成 16 年台風 23 号」の実績水位プレートが設置されています。＜国土交通省四国地方整備局編「吉野川水系河川整備計画－吉野川の河川整備（国管理区間）－【変更】」2017 年、徳島地方気象台編「徳島県自然災害誌」2017 年＞



地盤沈下①

**宝永地震による津波と地盤沈下**

宝永4年(1707)10月4日午後0時30分、紀伊半島沖でマグニチュード8.4の大地震が発生しました。この地震で四国の太平洋沿岸には津波が襲い、瀬戸内海沿岸では地盤沈下によりその後高潮被害が起こるようになりました。そのことを示す痕跡や記録が徳島県海陽町と愛媛県西条市に残されています。

■ 鞆浦の大岩碑(徳島県海陽町)

海陽町の鞆浦漁港近くに幅約5.2m、高さ約3mの大岩があります。ここに慶長地震(1605)の碑と並んで宝永4年(1707)の地震の碑が刻まれています。慶長地震の碑には十丈(30m)の津波が7度襲来し100余人が亡くなったことなどが記され、宝永地震の碑には「宝永四年丁亥冬十月四日未時 地大震所海潮湧出丈余蕩々襄陵反復三次而止 然我浦無一人之死者可謂幸矣 後之遭大震者予慮海潮之變而避焉則可」とあります。宝永地震の時には午後2時頃に3m余の津波が3度襲来したが犠牲者がなくて幸いであった、大地震の時には津波が来ると考えて避難すべきと記されています。〈海部町史編集部編「海部町史」1971年、大石修一編「奥浦誌」2006年など〉



鞆浦の大岩碑

copyright © 2013 高橋実業アーカイブス



左が慶長碑、右が宝永碑



(地理院地図に加筆)

地盤沈下②

■碓神社（愛媛県西条市）

西条市玉津の碓神社の棟札に「宝永四年十月四日大地震以後高汐満就中宝永五年八月三日大洪水高汐社中迄上揚砂尺余段々及大破今年新造営于時正徳二年九月八日御遷宮」と記されています。宝永4年（1707）の地震によりそれ以後地盤沈下のため高潮が満ちるようになり、とりわけ宝永5年（1708）には大洪水、高潮が社中まで上がり、碓神社が大破したため、正徳2年（1712）に遷宮したということです。加藤正典氏によると、もともと明神木にあった碓神社は、玉津字丸山の本（玉津小学校の北東の角の高台）に移され、そこから現在地に遷宮されたそうです。旧碓神社跡には碑が建てられています。〈加藤正典「明神木の歴史と碓神社－伊予西條の歴史の一考察－」2001年など〉





碓神社

copyright:2013 西国災害アーカイブス



旧碓神社跡

copyright:2013 西国災害アーカイブス



(地理院地図に加筆)



## 油断せず避難せよ

大地震の後には津波に備えて、できるだけ早く高い所に避難することが大事です。このことは安政南海地震に関する碑にも記されています。徳島県美波町と高知県土佐清水市の碑をご紹介します。

### ■木岐王子神社の石灯籠（徳島県美波町）

安政元年（1854）11月4日午後2時頃地震があり、津波に備えて人々は裏山で一夜を過ごしました。何事もなかったので人々は話し合い5日昼頃までにわが家に戻ったところ、その日の午後4時頃大地震が起こり、その直後に大山のような津波が押し寄せて、人々は急いで山へ逃げ上がりました。この津波により、木岐浦では203軒のうち190軒が流失し、11人が犠牲になったと伝えられています。木岐王子神社の石灯籠には、大地震の後、1時間のうちに津波が三度入り込み、4丈（12m）余の津波により家屋や神社が流失したことが記され、大地震の際には油断せぬよう伝えています。〈由岐町史編纂委員会編「由岐町史下巻」1994年、木岐王子神社の石灯籠の碑文など〉



### ■三崎十字橋の碑 (高知県土佐清水市)

安政元年(1854)11月5日午後4時過ぎ大地震が起こり、強烈な震動が約10分間続いた後、津波がやって来ました。下川口では、津波は3回来ましたが、2回目が特に大きかったそうです。目撃した人によると、津波は寄せる時は徐々に来て烈しくありませんでしたが、退く時には勢いすこぶる猛烈を極めたといいます。地震の後には津波が来ることをみんな予知していて、ただちに高所に避難しました。かつて旧三崎川にかかっていた三崎浦の十字橋付近には、安政地震に関する石碑があります。これは十字橋が廃されて久しくただ石標だけ残されていたものを、昭和51年に三崎郷土史の会が再興したものです。この碑には、大地震が起こるや否や津波が来るので、火を消して家を出ることが第一と記されています。<田村非水編「下川口村誌復刻版」1985年、三崎十字橋の碑文など>

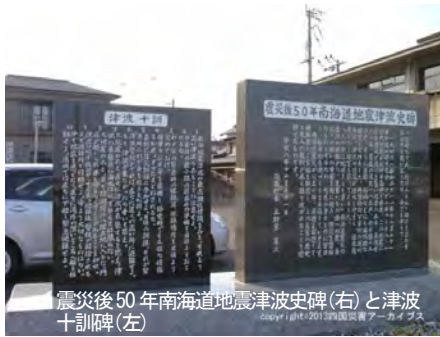


## 地震と津波による被害

大地震が起きると、震動で家屋が倒壊したり、火災が発生したり、津波で人や建物が流されるなどさまざまな被害が起こります。今回は、昭和南海地震で津波被害に遭った徳島県浅川村（現海陽町）と、震動や火災、地盤変動で大きな被害に見舞われた高知県中村町（現四万十市）の様子をお伝えします。

### ■浅川村の津波被害（徳島県海陽町）

昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、紀伊半島沖でM8.1の南海道大地震が発生し、海部郡沿岸には地震発生後10分余りで津波の第一波が襲来し、15分ないし20分の周期で第二波、第三波が襲来しました。典型的なV字湾である浅川湾では津波の波高が増幅しやすく、湾奥ほど波が急激に高くなり、津波は陸上に這い上がり、人家を襲い人命と財産を奪いました。浅川村の被害は死者85人、負傷者80人、家屋の流失441戸、全壊364戸、半壊189戸、田の流失埋没35町、浸水35町、畑の流失埋没13町、浸水20町、船舶の流失80隻、大破20隻に達したほか、道路、橋梁、港湾などにも大きな被害が出ました。海陽町浅川出張所前に、震災後50年南海道地震津波史碑と津波十訓碑が建立されています。＜海南町史編さん委員会編「海南町史上巻」1995年、海南町編「南海地震津波の記録 宿命の浅川港」1986年など＞



### ■中村町の地震被害（高知県四万十市）

昭和21年（1946）12月21日午前4時過ぎ、南海道沖大地震が発生し、中村町では震動により全世帯数2,448戸のうち全壊が1,111戸、半壊が611戸で家屋の7割以上が全半壊の被害を受け、火災による焼失家屋が66戸、地震による死者は278人となりました（中村町史による）。河川では、渡川（四万十川）と後川を合わせて全長約14kmにわたり、最大4m最小でも30cmの沈下を生じたほか、各地で亀裂、崩壊の被害を受けました。特に渡川右岸入田堤防、後川右岸中村堤防、後川左岸佐岡堤防の被害は甚大でした。四万十川橋はトラス橋8連のうち両端を残して6連が落橋しました。＜中村町役場編「中村町史」1950年、建設省四国地方建設局中村工事事務所編「六十年の歩み」1991年など＞







## 災害からの復旧

災害に見舞われることがあります。そのたび毎に、人々は気力を振り絞って、前を向いて災害に立ち向かい、災害を乗り越えるための努力をしてきました。今回は災害からの復旧に取り組んだ香川県小豆島町と高知県南国市の例をご紹介します。

### ■山津波からの復旧（香川県小豆島町）

昭和6年(1931)9月18日、低気圧による豪雨のため、福田村(現小豆島町)で山津波が起こり、伊豆川、森庄川、丹波川、吉田川など河川はほとんど全滅し、宅地、田畑、道路など平坦部のほとんどが一面の泥海になりました。被害は死者5人、家屋の流失・半壊70棟、耕地の埋没・流失14町歩に及び、その他浸水の被害は数えきれず、福田村創始以来の惨害となりました。昭和7年に国費の助成を受けて県直営の災害復旧砂防工事が着手され、昭和9年5月に完成しました。山ノ神神社境内に建立された災害復旧砂防工事碑には「治山富國」と刻まれています。<福田村誌編集委員会編「福田村誌 葺田の里」2005年、山ノ神神社境内の災害復旧砂防工事碑の碑文など>



### ■室戸台風からの復旧（高知県南国市）

昭和9年（1934）9月21日、室戸台風により、前浜村（現南国市）の海岸地帯は大きな被害を受けました。伊都多神社境内のひと抱えもある大きな松の木が何本も倒れたということからすると、浜通り沿いの松並木の防風林もかなり倒れ、家屋や農作物にも相当な被害があったはずですが、記録として残されていません。前浜村は、村長を組合長とする復旧組合を組織し、災害復旧事業と海岸堤防の築造に取り組みました。復旧工事は昭和10年に完成し、堤防の内側では農作物も栽培できるようになりました。このことを後世の人々に伝えるため、昭和10年10月に復旧記念碑が建立されました。その後、クレーン車による事故で碑が破壊されたため、現在の碑は再建されたものだという事です。＜神田二三夫「室戸台風と復旧記念碑」（南国史談第28号）2005年、前浜の復旧記念碑の碑文など＞



前浜の復旧記念碑 ©2013 国土院 国土地院アーカイブス



前浜の海岸堤防 ©2013 国土院 国土地院アーカイブス





## ため池の役割

ため池はもともとかんがい用水の不足に対応するために造られ、その役割を維持するために改修や増築が行われてきました。今日ではため池にはかんがい用水の確保だけでなく、一時的な洪水調節、多様な生物の生息・生育場所、地域の人々が憩う場所など多面的な機能も重視されています。香川県丸亀市の大窪池と愛媛県西予市の関地池をご紹介します。

### ■大窪池（香川県丸亀市）

正保2年(1645)春から秋まで雨が降らず未曾有の干ばつとなったため、高松藩主松平頼重は家臣矢延平六らにため池の築造を命じました。そのうちの一つが正保4年に築造された大窪池です。この池は丸亀市綾歌町岡田から下法へ南北に延びる大きな窪地にあることから大窪池と名付けられたと言われています。その後、文化7年(1810)に堤防の嵩上げ、大正12年(1923)に底樋を木造から石造にするなどの改修工事が行われ、昭和49～55年度(1974～1980)には県営大規模老朽ため池等整備事業が行われるなどしてきました。また、平成23年度(2011)には池の東側に遊歩道が整備され、地域の人々が飯野山(讃岐富士)を眺めながら散策する場所としても活用されています。<讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年、香川県HP>



■ **関地池 (愛媛県西予市)**

宇和町 (現西予市) 信里は水不足に悩まされてきた地域で、関地池は寛永 21 年 (1644) に宇和島藩主伊達秀宗の命により築造されました。当初、築堤工事が難航しましたが、人柱を立てたらという意見が出た時、巡礼の親子連れが通りかかりました。母親のお関は、皆さんのお役に立つならば私たち親子が生き埋めになり土手を守りましょうと申し出て、人柱を立てた翌日から工事が順調に進み完成したので、お関さんの名にちなんで関地池と名付けられたと、池の標識に記されています。その後、幾度も拡張工事が重ねられ、昭和 27～36 年度 (1952～1961) に関地池拡張工事が県営事業として行われて、現在の規模の池になりました。昭和 30 年代に関地池の回りに植えられた桜と楓が、四季折々に訪れる人を楽しませています。〈愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986 年〉





## 土砂災害を伝える

台風や前線に伴い大雨が続くと土砂災害が発生することがあります。土砂災害は山間部だけでなく、島部や都市部でも起こります。そのことを伝える石碑が建立されています。香川県小豆島町と高知県高知市の石碑をご紹介します。

### ■真光寺の復興記念碑（香川県小豆島町）

昭和51年(1976)9月、台風17号が九州南西海上に停滞し、前線の作用も加わって、小豆島では記録的な大雨となりました。8日～13日の降雨量は内海町(現小豆島町)四望頂で1,376ミリに達しました。わずか6日間で1年分の降雨量を超える集中豪雨となりました。小豆島町馬木の真光寺の復興記念碑には、この豪雨により、町内全域で山崩れによる土石流、急傾斜地の崩壊、河川の決壊などが発生し、多数の死傷者、家屋の倒壊、浸水など未曾有の大災禍となったことが記されています。町内の被害は死者7人、重傷者18人、軽傷者36人、建物の全壊127戸、半壊137戸、床上浸水1,543戸、床下浸水1,191戸などに及びました。<内海町災害の記録編集委員会編「昭和51年9月台風17号による集中豪雨1,400ミリの爪跡」1977年など>



### ■比島山災害慰霊碑（高知県高知市）

昭和47年（1972）9月13日午後から低気圧による雨が降り始め、15日午後2時前から高知市付近を中心に局地的な大雨となりました。高知市の1時間雨量は91.5ミリで、9月としては過去最高でした。この豪雨により、15日午後7時15分頃、高知市比島山北面で高さ約30m、幅約50mにわたり山崩れが起きました。この山崩れで比島町2丁目の住家9戸が全壊、1戸が半壊、火災も発生し、死者10人、負傷者3人の被害が発生しました。比島山災害慰霊碑には、当時は土地開発ブームで安全対策の不十分な急傾斜の宅地が激増し、比島山災害は都市型複合災害の典型として注目されたことが記され、そのことを教訓として将来起こりうる災害に対して町民が一致協力して対処することを誓うという趣旨のことが刻まれています。〈高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」1998年など〉



# 四国災害アーカイブスの概要

## ■利用の方法

四国災害アーカイブスは、インターネットを通じて利用していただきます。

四国災害アーカイブス <http://www.shikoku-saigai.com>

## ■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、29,850件です（令和7年4月現在）。

## ■収録されている災害情報の内容

災害の種類	1)地震・津波 2)土砂災害 3)渇水 4)風水害 5)高潮	6)雪害 7)火山災害 8)大規模な火災 9)その他	
災害情報の概要	災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応、被害軽減の取り組み、等		
情報収集の範囲	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの		
情報収集対象物	上記の情報を記載している印刷物または電子データ、および現地調査情報 ・市町村史、郷土史 ・災害記録、災害体験集 ・学術論文、雑誌論文		・事業誌 ・写真集 ・その他文献等
関連情報	・災害現場、石碑、痕跡等の位置情報及び写真 ・原資料PDF（著作権者から許諾が得られた場合）		

## ■四国災害アーカイブスでお伝えしたいこと

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の3つのことをお伝えできればと考えています。

### ①身近な所に災害の歴史があります

平成23年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、濁水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さんの身近な所にも災害の歴史があります。

### ②人々が災害に立ち向かってきた歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけではありません。できるだけ災害が起こらないように、またできるだけ被害が大きくなるように、その時々に応じた取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重ねの上に、今日の四国があります。

### ③災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さんが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしたいだけ、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。

## メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジンを毎月発信しています。メールマガジンの受信を希望される方は下記にメールをお送りください。

E-mail: [info@shikoku-saigai.com](mailto:info@shikoku-saigai.com)

---

## アーカイブスあらかると Vol. 142~153 (2024年4月~2025年3月)

四国災害アーカイブス事務局  
(一般社団法人 四国クリエイト協会)  
〒760-0066 香川県高松市福岡町 3-11-22  
電話 087-822-1676 FAX 087-823-8569  
<http://www.shikoku-saigai.com>